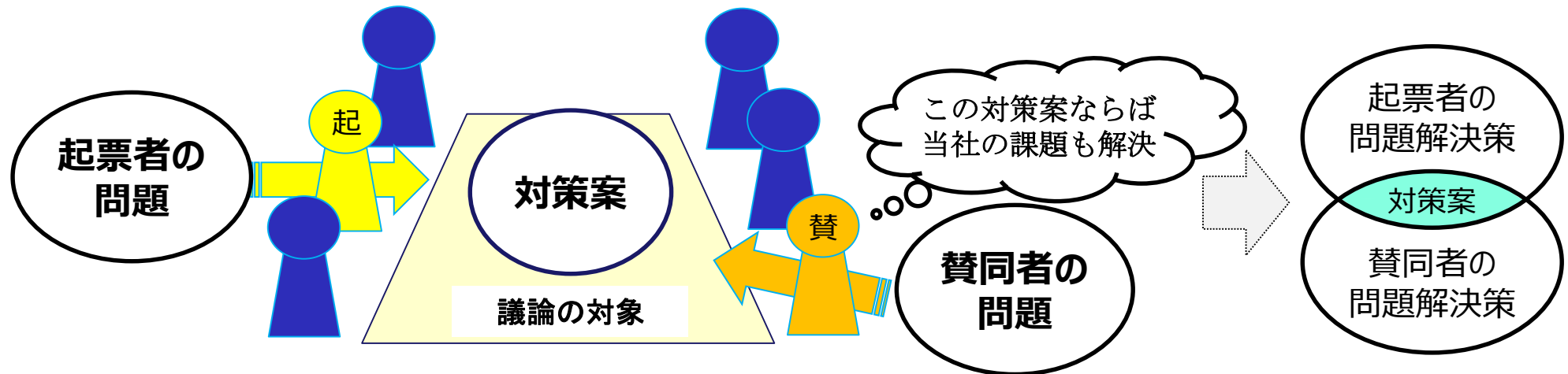


- 本実務者会議では、以下のような形のご意見・ご要望に対して議論を進めているケースがある。

(例) 実務上で□□が問題となっている。そこで、現状は△△となっているが、○○としていただきたい。

- このようなご要望においては、“対策案の可・否”を念頭に議論がなされるケースが多い。スピーディな検討に効率的とも言えるが、スイッチングシステム運用開始から1年以上経ち、小売電気事業者数も増え、小売各社の業務には様々な個性や事情が現れている状況において、以下の問題が生じていると考える。
 1. 起票者の抱える問題に対して提案された「対策案」について、その「対策案」に賛同する形で、賛同者の抱える全く別の問題が関連付けられる可能性がある。この場合には、代替案を立てにくい。
(実際、1つの対策案に対し、起票者とは別の問題認識で賛同している状況がうかがえる。)
 2. 対策案の実現可能性の議論が中心となり起票者の抱える問題の内容や背景等を十分共有できないため、メンバーによる代替案の検討が行われにくい可能性がある。
 3. 起票者の問題の重要度を十分に共有できないため、メンバーは問題解決に注力すべきか判断できず、解決に向けた検討においてメンバーの積極性が生まれにくいおそれ。



現状では、起票者の抱える問題と、賛同者の抱える問題は必ずしも一致するとは限らない。
 検討を深めるためにも、まずは、起票者の抱える問題の内容や重要性を共有することが大切である。

提案：スイッチング支援実務者会議へ起票を行う際は、起票者の抱える問題の内容や重要性を共有するため、原則、以下の情報をいただくこととしたい。

問題の重要性を議論するため、起票者に求められる情報（案）

- ・ 問題の概要
- ・ 問題発生頻度の頻度（例：毎月〇〇件、〇〇% 等）
- ・ 問題解決時の効果（例：〇〇時間削減、〇工数削減等、可能ならば極力、定量的な数値が望ましい。）
- ・ 起票者における、問題解決に向けた対応状況
- ・ 個別エリアの問題か、全国エリアの問題であるか

（なお、これらは従来、事務局が個別に起票者にヒアリングしていた事項でもある）

→ いただいた情報を基に、まず事務局は実務者会議の議題とするか起票者と協議する（これも従来と同じ運用）